

施策の進捗状況 及び見直しの考え方

1. 現行計画の施策体系

基本方針	施策の方向性	施策	
1 みんなで 身近なみどりを 育てよう	(1) 区民の みどりづくり 意識の醸成	①情報の共有と発信 (★)	拡充
		②みどりに親しむイベントの実施	継続
	③みどりの大切さの普及・啓発	継続	
	④みどり・いきものの基礎的な調査の実施	継続	
2 みどりを 活かして めぐるの魅力を 高めよう	(2) 区民の活動の場 や機会の充実	⑤自主的団体間の連携の推進 (★)	細分
		①グリーンクラブの活動推進 (★)	継続
	②区民等による公園等の活性化 (★)	継続	
	③みどりを学ぶ機会の充実	継続	
(1) みどりを活かした 魅力あるまちづくり の推進	(2) 公園等の魅力向上	④事業者等との連携促進 (★)	新規
		①魅力あるみどりのまちなみ形成 (★)	拡充
		②みどりの観光資源の充実と発信 (★)	細分
		③地区計画等による緑化の推進	継続
④多様なみどりを活かした緑化		①子どもの成長の場としてのみどりの活用 (★)	細分
		②心身の健康をはぐくむ公園づくり (★)	細分
		③公園の特性を活かした管理	継続
		④指定管理者制度等の活用	継続
		⑤公園活用提案制度の検討 (★)	新規
		⑥みどりのリサイクルの推進	継続
		⑦いきものの生息できる環境づくり (★)	拡充

新規 : 新たな施策

拡充 : 前計画の施策を拡充する施策

★ : 重点的取組に位置付けた推進施策

細分 : 前計画の施策から細分化する新たな施策

継続 : 前計画から継続する施策

1. 現行計画の施策体系

3 歴史文化の 薫るみどりを 守り伝えよう	(1) 樹木・樹林の保全	<ul style="list-style-type: none"> ①住宅地のみどりの保全 (★) ②保存樹木等の保全支援 ③社寺林・屋敷林の保全支援 (★) ④生物多様性保全林の指定 (★) ⑤サクラの保全 (★) 	継続 継続 細分 拡充 新規
	(2) 農地の保全・活用	<ul style="list-style-type: none"> ①農地の保全・活用 (★) ②区民農園の確保 	拡充 継続
4 多様なみどりを つないで ひろげていこう	(1) みどりの ネットワーク形成	<ul style="list-style-type: none"> ①緑道の整備 ②みどりの散歩道の整備と活用 ③道路の緑化推進 ④水辺の環境保全 ⑤屋上・壁面緑化の推進 (★) ⑥接道部緑化の推進 (★) 	継続 継続 継続 継続 拡充 拡充
	(2) 民有地の緑化	<ul style="list-style-type: none"> ①民有地の緑化の推進 (★) ②苗木の配布による緑化推進 	拡充 継続
	(3) 公共施設の緑化	<ul style="list-style-type: none"> ①区立の公共施設の緑化 ②学校の緑化 ③官公庁施設（国・都施設）の緑化 	継続 継続 継続
5 暮らしに潤いを 与える みどりの拠点を きずこう	(1) 公園・緑地等の 整備	<ul style="list-style-type: none"> ①住民参加を基本とした公園づくり ②身近な場所への公園整備 ③多様な手法による公園整備 ④都市計画公園・緑地の整備 ⑤公園ストックの再編 (★) ⑥公園施設の長寿命化 (★) 	継続 継続 継続 継続 拡充 新規
	(2) ふれあい広場等の確保	<ul style="list-style-type: none"> ①ふれあい広場の整備 ②民間によるみどりのオープンスペースの創出 (★) 	継続 拡充

新規：新たな施策

拡充：前計画の施策を拡充する施策

★：重点的取組に位置付けた推進施策

細分：前計画の施策から細分化する新たな施策

継続：前計画から継続する施策

2. 施策の進捗状況及び見直しの考え方

基本方針

1 みんなで身近なみどりを育てよう

施策の方向性

(1) 区民のみどりづくり意識の醸成

施策名

① 情報の共有と発信

施策の進捗状況、課題等

- 自然クラブニュース、花とみどりの学習館だより、自然通信員だより、めぐろ区報、グリーンデータブック等、毎年実施。
- 区報や区のホームページを用いた自然体験プログラムの情報発信。
- 目黒デジタルアーカイブ100にコンテンツ「みどりの散歩道(R4)」と「目黒の桜(R4)」、「目黒のいきもの(R5)」を追加。

区民意向

- みどりの情報をもっと気軽に発信したり、みんなと共有できるようにしたい！

見直し内容のイメージ

拡充

【指標の設定】

- 情報発信の種類の実度、発信の頻度を指標に進捗管理を行う。

【施策見直しの視点】

- ① 情報発信の手段としてデジタルアーカイブを加えるとともに、生物多様性などコンテンツの充実を図る。(生物多様性地域戦略／生涯学習実施推進計画)
- ② より多くの外国人住民に地域活動へ参加してもらうため多言語での情報発信を進める。(目黒区基本計画)
- ③ 情報の取得が困難な障害者等に配慮し、情報のバリアフリーに取り組む。(目黒区基本計画)
- ④ 区外に向けた情報発信のあり方について検討を進め、実施する。(観光ビジョン)

2. 施策の進捗状況及び見直しの考え方

基本方針

1 みんなで身近なみどりを育てよう

施策の方向性

(1) 区民のみどりづくり意識の醸成

施策名

③ みどりの大切さの普及・啓発

施策の進捗状況、課題等

- みどりの大切さを啓発するパンフレットの作成・配布
(目黒川のいきものたち、めぐろいきもの气象台)
各1,000枚
- 樹名板(保存樹) 256基設置
(H27年度からR5年度集計)
- 樹名板(保存生垣) 19基設置
(H27年度からR5年度集計)
- 職員活用しま専科(菅刈小学校、鷹番小学校、
五本木小学校などで例年2~3回程度実施)
- 駒場野自然クラブ、菅刈椎塾、野遊びクラブの開催
- 普及啓発の効果として、ボランティア参加者以外にも、
区民の取り組み状況の広がりを評価する仕組みが必要。

見直し内容のイメージ

拡充

【指標の設定】

- みどりや生物多様性に関する取り組みを実践する区民の割合

【施策見直しの視点】

- ① 従来の普及啓発に加えて、環境ナビゲーターを含め多様な主体と連携しながら「一人ひとりのチェックリスト」に沿った活動の普及啓発を図り、持続可能な社会の形成に貢献する取り組みを浸透させる。(生物多様性地域戦略)
- ② 一人ひとりのチェックリストを指標にアンケート調査を定期的に行い、取り組みの浸透状況を把握する。(生物多様性地域戦略)
- ③ アンケート調査結果を活用し、普及啓発等の取組の改善を図ることで行動変容(エシカル消費を含めたもの)を推進する。

2. 施策の進捗状況及び見直しの考え方

基本方針

1 みんなで身近なみどりを育てよう

施策の方向性

(2) 区民の活動の場や機会の充実

施策名

② 区民等による公園等の活性化

施策の進捗状況、課題等

- ・ グリーンクラブ活動の推進
- ・ 花みどり人講座の開催
- ・ 桜守ボランティア養成講座の開催
- ・ 目黒のサクラ保全事業報告会で桜守活動体験を実施（参加者50人）
- ・ 公園活動登録団体数は増加傾向（17→20）にある。登録人数は概ね横這い（487～557）に推移している。

区民意向

- ・ 区民ボランティアで公園を管理する場所を増やしては！？

見直し内容のイメージ

拡充

【指標の設定】

- ・ 公園活動登録団体数（団体数、人数）

【施策見直しの視点】

- ① 団体の希望に応じた指導者の派遣や、活動するために必要な機材の貸し出し、活動場所の提供等により活動の支援を行う。（目黒区基本計画／生涯学習実施推進計画）
- ② パークコーディネーターの活用も図りながら、団体と地域住民の連携を深める取り組みを推進する。（生物多様性地域戦略）

2. 施策の進捗状況及び見直しの考え方

基本方針

2 みどりを活かしてめぐろの魅力を高めよう

施策の方向性

(1) みどりを活かした魅力あるまちづくりの推進

施策名

② みどりの観光資源の充実と発信

施策の進捗状況、課題等

- ・ 目黒天空庭園の栽培、ブドウ作りの支援
- ・ 桜マナーマップの制作を通じた目黒川沿い・都立大学駅・西小山駅近辺の桜並木の案内。
- ・ まち歩き事業として、東山のイチョウ並木や大岡山～洗足池の桜を鑑賞できるツアーを実施。
- ・ 参考指標の駒場公園和館来客数が目標の半分程度

見直し内容のイメージ

拡充

【指標の設定】

- ・ 駒場公園和館、菅刈公園和館来客数

【施策見直しの視点】

- ① デジタルサイネージやホームページ等のデジタルツールを活用し、まちの魅力を区民や来訪者へ積極的に発信するとともに、多言語化などによる観光資源としての情報発信の充実を図る。（目黒区基本計画）
- ② めぐろ観光まちづくり協会と連携し、桜などの自然など地域資源のPRとともに、様々な目黒区の魅力について理解を深め、楽しめるまち歩き事業を推進する。（目黒区基本計画）
- ③ 目黒川東側など、貴重な斜面上の公園は視点場としての活用を図っていく。（景観計画）

2. 施策の進捗状況及び見直しの考え方

基本方針

2 みどりを活かしてめぐろの魅力を高めよう

施策の方向性

(2)公園等の魅力向上

施策名

① 子どもの成長の場としてのみどりの活用

施策の進捗状況、課題等

- 花とみどりの学習館での連続プログラム、こども動物広場での小動物とのふれあい、ポニー教室等を実施。
- 子ども向け野外活動を実施している公園活動登録団体の支援
- 駒場野自然クラブや楽田クラブの開催
- ヒーローバス送迎事業（H30～現在：送迎先の公園4か所）

見直し内容のイメージ

拡充

【指標の設定】

- なし

【施策見直しの視点】

- 現行計画の施策を継承し、以下の拡充を図る。
 - ① 従来のプログラムに加え、ボランティア団体等と連携しボランティア体験活動を通じた環境教育の推進や、防災教育への活用などプログラムの充実を図る。（子ども総合計画）
 - ② 子どもが利用しやすい施設等の整備にあたっては、子どもの視点を取り入れた施設等の整備を進めるために子どもが参加する仕組みについて検討し、その実現に向けて取り組む。（目黒区基本計画）
 - ③ インクルーシブ遊具の導入等を進め、障害のある子どもの居場所の充実を図る。（子ども総合計画）
 - ④ 保育園の園児を敷地の広い公園へ送迎する「ヒーローバス」を活用・拡充し、保育環境の充実を図る。（子ども総合計画）

2. 施策の進捗状況及び見直しの考え方

基本方針

2 みどりを活かしてめぐろの魅力を高めよう

施策の方向性

(2)公園等の魅力向上

施策名

⑦ いきものの生息できる環境づくり

施策の進捗状況、課題等

- ・ サンクチュアリの設置、在来種を用いた植栽等を実施
- ・ 野鳥の年間確認種数 50種前後で推移
- ・ タンポポ、ツバメ等の指標在来生物種の分布率 48.6%
- ・ 駒場野公園のかいぼり事業（R2年度）

区民意向

- ・ 色々ないきものが生息し、ふれあえる環境がほしい
- ・ いきものに優しい公園管理をしてほしい

見直し内容のイメージ

継続

【指標の設定】

- ・ 野鳥の年間確認種数50種を維持し、70種を目指す
- ・ タンポポ、ツバメ等の指標在来生物種の分布率50%

【施策見直しの視点】

- ① 公園等造成時など表土の保全やグリーンインフラを活用し、いきもののすめる土や地面を確保する。（生物多様性地域戦略）
- ② 落ち葉クの推進、トンボ等のすめるビオトープ池の設置、菜園や田んぼ、吸蜜植物の植栽等によりいきものに配慮した緑地の整備・管理を行う。（生物多様性地域戦略）
- ③ いきもののすめる庭の取組を進める。（生物多様性地域戦略）

2. 施策の進捗状況及び見直しの考え方

基本方針

3 歴史文化の薫るみどりを守り伝えよう

施策の方向性

(1) 樹木・樹林の保全

施策名

① 住宅地のみどりの保全

施策の進捗状況、課題等

(R5年度実績からH26年度実績を引いた数)

- ・ 保全協議件数 447件
- ・ 保全協議対象本数 2,978本
- ・ 保全された本数 539本 (内移植 47本)

区民意向

- ・ 宅地のみどりを守るための企画や支援がほしい！
- ・ 相続により土地の分割が進むことで自ずとみどりは減っていく。一定規模以上の敷地は減税対象になるなど配慮をしていかないと維持していくのは難しいと思う。

見直し内容のイメージ

拡充

【指標の設定】

- ・ 住宅地のみどりの保全に関する制度等のPRの実施数

【施策見直しの視点】

- ① 住宅地のみどりの保全等により住宅地の快適性の向上を図るとともに、豪雨対策の充実を図るためグリーンインフラとしての活用に努め、普及啓発を進める。(都市計画マスタープラン)
- ② 優先的に保全すべき民有地のみどりに対する税制上の優遇措置等について国や都へ要望していく。

2. 施策の進捗状況及び見直しの考え方

基本方針

3 歴史文化の薫るみどりを守り伝えよう

施策の方向性

(1) 樹木・樹林の保全

施策名

② 保存樹木等の保全支援

施策の進捗状況、課題等

- 保存樹木指定 236件 652本指定 (R5年度末現在)
- 保存樹林指定 25件 81,504.63㎡指定 (R5年度末現在)
- 保存生垣指定 71件 2,718.85m (R5年度末現在)

(H27年～R5年実績)

- 保存樹木指定 256本
- 保存樹林指定 0カ所
- 保存生垣指定 19件 606m)

見直し内容のイメージ

継続

【指標の設定】

- なし

【施策見直しの視点】

- 現行計画の施策を継承し、「施策3-1-1 住宅地のみどりの保全」に統合する。

2. 施策の進捗状況及び見直しの考え方

基本方針

3 歴史文化の薫るみどりを守り伝えよう

施策の方向性

(1) 樹木・樹林の保全

施策名

④ 生物多様性保全林の指定

施策の進捗状況、課題等

- 生物多様性保全林事業の指定（菅刈公園H28、駒場野公園H29、碑文谷公園R5）
- 駒場野公園の育児書、駒場野公園管理運営計画書の作成（R2）
- 碑文谷公園での小学校との協働による生物調査、碑文谷公園管理運営計画書の作成（R5）
- 中根公園において保全林指定に向けた取り組みを進めている。（R6～R8）

見直し内容のイメージ

継続

【指標の設定】

- 生物多様性保全林の指定数

【施策見直しの視点】

- ① エコロジカルネットワークの調査結果等も踏まえ、重要な樹林等の優先的な保全を推進する。
- ② 生物多様性保全林での住民活動を支援する。（生物多様性地域戦略）

2. 施策の進捗状況及び見直しの考え方

基本方針	3 歴史文化の薫るみどりを守り伝えよう
施策の方向性	(2) 農地の保全・活用
施策名	① 農地の保全・活用

施策の進捗状況、課題等

- 生産緑地は箇所数（17→12）、面積（2.6ha→1.88ha）ともに減少。
- 収穫体験事業（H27～現在）R6年度はじゃがいも5園、ぶどう2園、秋野菜1園
- 農業体験事業（H27～R1）R2年度以降は農園主の都合により休止
- 都区市町村合同検討委員会にて「緑確保の総合的な方針」の改定。確保の水準として「特定生産緑地」を新設、生産緑地を保全すべき農地として明確化（R2年度）
- 都市農地の貸借の円滑化に関する法律（平成30年法律第68号）の制定に伴い、区内生産緑地において民間における市民農園（2園）が開設。
- 引続き、土地所有者の高齢化等により営農の継続が困難な場合は当該制度の活用を紹介するなど、都市農地の保全に取り組む必要がある。

区民意向

- 生産緑地の2022年問題に関して、面積要件が500㎡から300㎡に緩和されたが、その情報を知らない方も一部いらっしゃると思うので、普及啓発を進め農地保全を実現してほしい。

見直し内容のイメージ

拡充

【指標の設定】

- なし

【施策見直しの視点】

- 生産緑地地区の規制緩和に関する普及啓発や、特定生産緑地制度の活用により区内農地を適切に保全し、良好な都市環境の形成を図る。（都市計画マスタープラン／豪雨対策計画）
- 都市農地の魅力やグリーンインフラとしての機能を区民に周知し、区内農地の保全に対する理解促進を図るとともに、農業の人材育成や事業継承など、地域産業を維持・発展に資する取り組みを進める（目黒区基本計画）。
- 新たな担い手への支援として、「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」における農地の有効活用を推進する（都市計画マスタープラン）。

2. 施策の進捗状況及び見直しの考え方

基本方針

4 多様なみどりをつないでひろげていこう

施策の方向性

(1) みどりのネットワーク形成

施策名

⑤ 屋上・壁面緑化の推進

施策の進捗状況、課題等

- みどりのまちなみ助成（屋上緑化）（H27～R5：46件 592.56㎡）
- みどりのまちなみ助成（壁面緑化）（H27～R5：4件 67.91㎡）
- 2050年のゼロカーボンシティの実現に向け、建物屋上への太陽光発電システムの設置が主となるが、屋上緑化の関係で再生可能エネルギー設備導入の課題となっている。今後、再生可能エネルギーの導入と屋上緑化の考え方等について整理が必要。

区民意向

- 道路沿いや駅前、水辺、屋上などみどりを増やしてエコロジカルネットワークをつなげたい！
- 高層ビルの屋上も活用して緑化を進めてほしい。

見直し内容のイメージ

継続

【指標の設定】

- みどりのまちなみ助成の実績（再生可能エネルギー導入の目標等を考慮）

【施策見直しの視点】

- ① 民有地の屋上・壁面等の緑化を推進するため、緑化工事費の一部を助成する。（目黒区基本計画／豪雨対策計画）
- ② 屋上緑化の際は、菜園やビオトープなど多様なみどりの創出を図る。（生物多様性地域戦略）

2. 施策の進捗状況及び見直しの考え方

基本方針

4 多様なみどりをつないでひろげていこう

施策の方向性

(1) みどりのネットワーク形成

施策名

⑥ 接道部緑化の推進

施策の進捗状況、課題等

- みどりのまちなみ助成（接道部）
（H27～R5：174件1,419.94m）
- みどりのまちなみ助成の申請が行われた接道部緑化は延べ約3,920mとなり、目標値（2,800m）を上回った。

区民意向

- 道路沿いや駅前、水辺、屋上などみどりを増やしてエコロジカルネットワークをつなげたい！
- 戸建てやマンションにもっとみどりが増えてほしい。

見直し内容のイメージ

継続

【指標の設定】

- みどりのまちなみ助成の実績

【施策見直しの視点】

- ① 民有地の接道の緑化工事費の一部を助成し、特に倒壊危険性のあるブロック塀の除却にあわせた接道部緑化、通学路や緊急輸送道路沿い、避難路沿いのブロック塀の生け垣への転換を促進する（目黒区基本計画／豪雨対策計画／子ども総合計画）。
- ② 接道部緑化の際は自然や四季を感じられる道づくりに留意し、特に緑道沿道に建つ建築物については、緑道との一体感を生み出すように接道部緑化を誘導する。（生物多様性地域戦略／景観計画）

2. 施策の進捗状況及び見直しの考え方

基本方針

4 多様なみどりをつないでひろげていこう

施策の方向性

(2) 私有地の緑化

施策名

① 私有地の緑化の推進

施策の進捗状況、課題等

- ・ 緑化計画認定（H27～R5：1,611件
1,017,137㎡）
- ・ 緑化計画の認定された事業は延べ1,017,137㎡となり、目標値（177,050㎡）を上回った。

区民意向

- ・ 道路沿いや駅前、水辺、屋上などみどりを増やしてエコロジカルネットワークをつなげたい！
- ・ 戸建てやマンションにもっとみどりが増えてほしい

見直し内容のイメージ

継続

【指標の設定】

- ・ 緑化計画認定により確保する緑地面積

【施策見直しの視点】

- ① 緑化計画の認定等により私有地の緑化について指導を行う。
- ② 草屋根やベランダ緑化などの工法や材料等の普及・啓発により建物全体の緑化を推進するほか、大規模な公園周辺の私有地では、公園との一体感を創出するようなしつらえに配慮するなど、事業者と協力しながらゆとりある住環境の創出を推進する。（生物多様性地域戦略／景観計画）

2. 施策の進捗状況及び見直しの考え方

基本方針

5 暮らしに潤いを与えるみどりの拠点をきずこう

施策の方向性

(1) 公園・緑地等の整備

施策名

⑤ 公園ストックの再編

施策の進捗状況、課題等

- 公園リノベーション工事（公園等の改良） 15箇所
- 宮前公園、呑川本流緑道、三角山公園、大塚山公園、東山中児童遊園、富士見台公園、桜森児童遊園、大鳥公園、緑が丘児童遊園、田切公園、東山児童遊園、衾町公園（児童交通施設）、上四児童遊園、新橋公衆便所、
- 公園管理(投資) 1箇所（碑文谷公園旧公園事務所跡地整備）
- トイレの新規設置 1棟（簡易バリア、下二南街かど公園）
- 公園等の改良（16箇所）および公園等の整備（約0.2ha）については目標値（公園等の改良30箇所、公園等の整備約3.6ha）を下回った。

見直し内容のイメージ

継続

【指標の設定】

- 公園等の改良箇所数

【施策見直しの視点】

- ① ユニバーサルデザインや、流域対策として雨水流出抑制施設の整備を推進するなど、グリーンインフラの視点を取り入れ、公園の改修にあわせて新たな機能の拡充に取り組む。（目黒区基本計画／都市計画マスタープラン）
- ② 施設の更新や公園等の全体的な改修にあたっては、公園等の利用状況や利用者の需要を把握し、更新内容に生かす。（都市計画マスタープラン）

2. 施策の進捗状況及び見直しの考え方

基本方針

5 暮らしに潤いを与えるみどりの拠点をきずこう

施策の方向性

(2) ふれあい広場等の確保

施策名

② 民間によるみどりのオープンスペースの創出

施策の進捗状況、課題等

- 東京音楽大学みどりの鎌倉街道(接道部の敷地を緑豊かな歩行者空間として地域に開放)
- 住環境整備条例に基づく公開広場の設置(敷地3,000㎡以上の大規模建築物について敷地面積の3%以上(商業系は1.5%以上)を公開広場として設置) ※実績:累計4,353㎡(H20.4～R6.12)。

見直し内容のイメージ

継続

【指標の設定】

- なし

【施策見直しの視点】

- ① 民間により創出・管理されている広場空間等を、公園等に準ずる公開性や継続性を確保する仕組み(市民緑地認定制度など)の活用を検討する。

3. 新規掲載施策の設定（考え方）

① 関連計画における施策の反映

新規施策の視点	掲載施策	施策の内容	関連計画
(1) 健全な水循環の形成	①雨水の地下浸透	<ul style="list-style-type: none"> 個別の施設に地下水涵養施設を設置する（小規模を想定。雨水流出抑制施設等の設置による雨水を地下に浸透させる。雨水の地下への浸透は豪雨対策の一助になる）。 水資源に対する意識の向上を図る。 	豪雨対策計画
	②豪雨災害対策	<ul style="list-style-type: none"> 公園内の既存の池や広場、公共用地などを豪雨時の滞水池として利用する。 	国土強靱化地域計画／地域防災計画／豪雨対策計画
(2) 防災性の向上	①避難場所の確保	<ul style="list-style-type: none"> 小規模な公園等でも一時的な避難所として機能するよう、防災施設等の整備を推進する。 	地域防災計画
	②防災活動拠点の整備	<ul style="list-style-type: none"> 公園緑地の規模に応じて、必要な活動を支援するための活動拠点となるように整備する。 	地域防災計画

3. 新規掲載施策の設定（考え方）

① 関連計画における施策の反映

新規施策の視点	掲載施策	施策の内容	関連計画
(2) 防災性の向上	③延焼防止空間としての公園整備	• 木密地域など火災発生時の延焼リスクの高い地域において優先的に公園整備等のオープンスペースの創出を図る。	国土強靱化地域計画
	④街路樹による延焼防止	• 避難路として主要な幹線道路沿いの延焼防止を図るため、街路樹の選定時に耐火性の高い樹種を選ぶ等の配慮を行う。	国土強靱化地域計画／地域防災計画
(3) 水資源の有効活用	①雨水の有効利用	• 平常時は公園や花壇の散水用の水源としての利用、災害時等は生活用水としての利用を想定し、雨水タンクの設置を推進する。	豪雨対策計画

3. 新規掲載施策の設定（考え方）

② 関連部署アンケートの回答結果

事業名	区分	事業内容	所管部署
目黒区域外の森林整備事業	新規	多摩地域の森林において、参加自治体が連携して持続可能な森林の循環の確立に向けた広域的な取組を推進することにより、森林の有する多面的機能の維持増進を図るため結成された「多摩の森」活性化プロジェクト運営協議会が運営する事業。	環境保全課
「めぐろエコの森」森林整備事業	既存	宮城県角田市内にある「四方山さくら公園」の一画に広さ1ha程の「めぐろエコの森」を創設し、平成22年11月にエコの森整備に係る協定を締結の上、同年12月にヤマザクラを植樹。現在は下草刈り、害獣除けの薬剤散布、作業道の整備等の森林整備事業を毎年実施。	環境保全課
公民連携によるまちづくり	既存	中目黒駅周辺地区では、ナカメ未来ビジョン（R6.3）を策定し、将来像「中目黒、つながりが咲くまち」の実現に向けて、ウォークブルネットワークの形成、魅力あふれる水辺の整備と利活用、まちなかの身近なみどりの保全と充実などの取組みを地域主体で推進。 自由が丘駅周辺地区では、公民連携によるまちづくり体制である自由が丘エリアプラットフォームが主体となって、パブリックプレイスの利活用を推進するためのガイドラインを作成し、利活用体制について検討を推進。	地区整備課